

## 第2回碧南市地域福祉計画策定委員会 会議録

### 1 日時

平成27年7月7日（火）午後3時から午後5時7分まで

### 2 場所

碧南市役所2階 会議室1

### 3 出席者及び欠席者

- (1) 出席者9名 委員長（碧南市民生委員児童委員協議会） 杉浦紀政、委員（碧南市老人クラブ連合会 禰宜田知司、碧南市主任児童委員 岡本康子、碧南市身体障害者福祉協会 石川繁夫、社会福祉法人樫の木乳幼児福祉会 對馬幸司、碧南市ボランティア連絡協議会 永坂幸子、助けあいの会さわやか碧南 倉内三代子、碧南市小中学校校長会 永坂昭彦）及びアドバイザー（日本福祉大学 野尻紀恵）
- (2) 欠席者6名 職務代理 杉浦三代枝、委員（碧南市連絡委員 鈴木達夫、碧南市手をつなぐ育成会 牧野昭彦、碧南市健康推進員 玉田久美、碧南市おやじの会連絡会 榊原幸弘及び碧南保護区保護司会碧南支部 鳥居寛英）
- (3) 事務局職員 福祉こども部長 奥谷直人、福祉課長 三枝寿也、福祉課課長補佐 鈴木善三、福祉課社会福祉係担当係長 鈴木信恵、碧南市社会福祉協議会事務局長 杉浦達也、地域福祉課長 杉浦幹雄、地域福祉課課長補佐 杉浦宏真、地域福祉課主事 古川裕隆及び鰐部宣行

### 4 傍聴者

0人

### 5 議題等

#### (1) 議題

- ア 第1期地域福祉計画及び第3次社協地域福祉活動計画の評価結果について
- イ 地域福祉に関するアンケートの分析について

### 6 議事の要旨

- (1) あいさつ（杉浦委員長）
- (2) 活動報告（永坂昭委員、岡本委員及び禰宜田委員）
- (3) 議題

- ア 第1期地域福祉計画及び第3次社協地域福祉活動計画の評価結果について

事務局が会議資料に基づき、第1期地域福祉計画及び第3次社協地域福祉活動計画の評価結果について説明した。

<主な意見・質疑>

【A委員】地域福祉計画と地域福祉活動計画を一つにする考えか。具体的にそれぞれの計画の基本目標もほとんど同じであるが、地域福祉計画が全体の行政計画であり、それを推進していく上で地域福祉活動計画があるという位置づけか。

【事務局】社協第3次計画は、市の計画を意識せず、独自に策定した。社会福祉協議会は、地域の活動にどのように参加し、応援できるのかという視点で第3次を策定した。今までの反省も踏まえる中で今後は、社協も市と合同で計画を策定することとする。

【A委員】地域福祉計画の中にソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーション、ケア等の記載があるが、あまりカタカナを使用すると専門用語のみとなるため、分かりやすい計画づくりが大切である。

次に行政計画も活動計画も事業の達成度があるが、現場では、数字には現れない目の前の人をどのように援助するのかというのがある。ソーシャルインクルージョンは孤立しがちな人も受け入れることであり、介入や手を差し伸べることであると思うので、もう少し数値に現れない存在であるそのような人も計画の視野に入れてほしい。

【事務局】重要な視点である。障害者、母子又は高齢者の方でも、より具体的な少し見える形で今回計画策定できればと思う。

【B委員】社会福祉協議会で防災ボランティア講座を実施され、ありがたいと思っているが、碧南市消防クラブでは毎年300名以上の防災の勉強に関わっている中で、災害ボランティア養成講座の市内受講者が少ないことから、協力を要請すればよいか。

【事務局】女性防火クラブ等が取り組んでいることも承知しているため、活動計画も輪を広げないといけないと思う。課題として、いくつか団体はあるが、まだ目が行き届いていないため、そこに連携することで、個別の事業がさらに有効なものになるため、そのように取り組みたい。

イ 地域福祉に関するアンケートの分析について

事務局が会議資料に基づき、地域福祉に関するアンケート結果について説明した。

<主な意見・質疑>

【A委員】西端では、前回比較的にまだ高齢者が少なかった。今回は非常に高齢化が進

み、市内でもトップクラスとなったことは、どのように理解すればよいか。

【アドバイザー】市全体と各地区の比較は分かったが、年齢層による回答、例えば「家族」や「地域社会」に生きがいを感じている人の中で、ボランティアをしている人はどれだけいるかという相関分析を行わないと先ほどの質問は分からない。これだけ資料があるので、極端に結果が出るか分からなくても、項目ごとに相関分析をすれば、各地区の特徴が分かると思うので、その結果をいただきたい。

今回一体的な計画を策定するので、碧南市ならではの地域課題に沿った計画や、活動計画を策定するには、例えば、今の家庭生活にすごく興味があるという人があまり地域活動に参加していない場合は、自分の生活に関係するところをいかにアナウンスして、地域活動に結び付けるかということがある。そこが全体として見えるので、相関関係を一度お願いしたい。

【事務局】高齢化が進むことが何かの課題ではなく、高齢者の多い所で様々な活動が進められる中で、同じ方法で固定化、定着化すると、次の世代が育たない課題に繋がる。必ずしもこの数字で施策の課題に繋がるとは限らないが、活動上での課題を挙げ、その課題とアンケートを結びつける。

【アドバイザー】若い人は生活に一生懸命で、子育てにも必死な中で、実は気にしているが地域活動に参加できないのか、全く気にしていないのかの差は大きいと思う。

全部の項目で相関を取ると必ず見えてくる。例えば、全ての学校で福祉教室を実践して思いやりが学校の中ではすごく見えてきたが、若い世代になった時に、それが地域活動に繋がっていなければ、社協としても、福祉教室のあり方を学校と話し合い、地域活動に結び付くようにする等、計画が具体的になる。できる限りたくさんの項目を相関するのは機械的で、簡単だと思うので、ぜひ次までをお願いしたい

【事務局】特性として何か数値で現れることから、それぞれの地域性から検討要素が見つかると思うので、検討する。

【A委員】前回計画時のアンケートと比較すれば、変化が分かると思うがその辺りはどうか。

【事務局】前回のアンケート項目と、ほぼ同様の項目で実施した。また、市の全体の傾向として、例えば、小中学校の児童生徒数の推移はある程度、把握している部分もあると思われるため、今後の推計も見ながらその中で答えが出ると思う。また、高齢化はどこも同じ傾向のため、その中で小中学生がなぜ減っているのかは、そういった

ところから把握できると思う。

【アドバイザー】 9 ページについて、母子父子家庭や高齢者世帯の推移については、平成 22 年以降が分からないので、先を確認したい。平成 12 年は、20 世紀最後の年、そこから一人親世帯が増えている。最近、離婚率も高まっているので、26 年がもう少し増えている可能性があると思われる。そうであれば、一人親世帯もかなり増えると、子どもの様子も変わるし、地域活動もやらなければいけないことが当たり前になってくるので、そこが見えるようにしてほしい。

【事務局】 反映する。

#### (4) その他

##### ア 地域福祉懇談会について

事務局が会議資料に基づき、地域福祉懇談会について説明した。

<主な意見>

特になし。

##### イ アドバイザー総括

前回よりもご意見いただき、より具体的に進める方向も決めることができる予感がしている。特に、高齢者が多く、子どもがいないことはどこも同じ課題であるが、今後何ができるか、ということを考えないと地域福祉は進まない。地域福祉は一般的に難しい分野で、障害者や高齢者等の分野を分けないものということをいかに地域住民に分かりやすく伝えるということが、今回の計画策定で非常に重要になる。そうしないと、本当に地域の人を巻き込みながら、私達の住みよいまちをつくることは困難。懇談会で、そのような話を少ししたら、碧南市域が一团となると感じる。懇談会というと、意見を言ってやってくださいとなりがちなので、自分事にしていくためにも仕掛けを考えないといけないと思う。市の行政としての強みと社協の強みを生かしながら、合体した計画を策定するので、委員の皆さんにはぜひ見ていただきたい。